



公益財団法人 Altum 協会

2025 年度活動報告



目次

1	事業の要約	3 ページ
2	事業 A 学び・交流の場の整備と提供	4 ページ
3	事業 B 学び・交流のための活動プログラムの開発と提供	
	活動プログラム留意事項	6 ページ
	オリエンテーション	7 ページ
	サークル	9 ページ
	リトリート	11 ページ
	オープン対話会	13 ページ
	パーソナル面談	14 ページ
	フォーラム	15 ページ
	体験会・探求ツアー	16 ページ
	ボランティア	17 ページ
	連携・助成	18 ページ
	複合活動	19 ページ
4	事業の評価と参加者の声	20 ページ
5	ガバナンス体制	22 ページ
6	事務局の体制	23 ページ

1. 事業の要約

公益財団法人 Altum 協会の事業は、大きく 2 つの事業から構成され、事業 A と事業 B と区分する。事業 A と事業 B は、おおよそ、ハードとソフト或いは器と中身という関係にある。

事業 A 学び・交流の場の整備と提供

ここでいう場とは、レジデンス、ライブラリ、育成センター等の自己施設及びデジタル空間であり、この場を、効果的な学びと交流を実現するために整備し提供した。

参加者数

1 レジデンス、ライブラリ、育成センター等施設の整備と提供	総利用者延約 25,000 人
2 デジタル空間の整備と提供	総利用者延約 5,500 人
事業 A 参加者総数	約 30,500 人

事業 B 学び・交流のための活動プログラムの開発と提供

オリエンテーションと 9 つの活動プログラムを実施した。

参加者数

オリエンテーション	初めての参加者への説明、意向確認等	55 人
1	サークル	1,560 人
2	リトリート	501 人
3	オープン対話会	6,474 人
4	パーソナル面談	3,473 人
5	フォーラム	48 人
6	体験会・探求ツアー	15 人
7	ボランティア	61 人
8	連携・助成	103 人
9	複合活動	512 人
事業 B 参加者総数	1	12,802 人
事業総参加者数 (A+B、延人数)		約 43,300 人

2. 事業 A 学び・交流の場の整備と提供

整備と提供を行なう「学びと交流の場」は、自己施設とデジタル空間の大きく2つ。

ライブラリー、レジデンス、育成センター等の自己施設の整備と提供

施設等の名称	概要
セイドー文化センター	■所在 兵庫県芦屋市大槻町1-11 ■定員 研究個室/寮個室 定員15名 活動定員200名 ■設備 会議室、研修室、面談個室、食堂、居間、勉強室、図書室等 ■機能 レジデンス、ライブラリ、育成センター、本部 ■その他 入居学生数：7人（日本3、フィリピン1、中国1、スペイン1、ブラジル1）

■ 学生は月額 11 万円（食事・洗濯・掃除込）、研究宿泊室利用は実費 4000 円/日、他は無料

■ 対象者： 全ての活動は、兵庫県在住、在勤、在学又は出身等県につながりのある者を対象

■ 2025 年度 延利用者数約 25,000 人

■ 施設運営の留意点

- ◇ 無駄なく行き届いた設備、清楚で家庭的な家具と調度品・「今」に集中できる空間を提供
- ◇ 本協会の定款3条の法人の目的である「ゆるぎない軸と豊かな絆を持ち、他者を尊重し他者によりそい、世界と日本の真の発展・繁栄に貢献できる人材の育成」照準。
- ◇ 「参加者が一定の習慣を身につける」という成果を得るため、①よりそい・対話する実施者、②参加者にフィットした活動、③好ましい環境という3点が必要条件を満たす上で、三点目の好ましい環境の柱にあたるのがレジデンスやライブラリーを設置し提供する。
- ◇ ライブラリーは単に蔵書・アーカイブ（図書約3000冊、デジタル図書約500冊、ナレッジアーカイブ約1000点）を提供するだけでなく、利用者各自の問いやニーズにヒントを与える。
- ◇ レジデンスは、そこに住む参加者のみならず、外部からの参加者が日常的に出入りする場として使用。



デジタル空間の整備と提供

デジタル・アーカイブ利用者	利用者は、上記①の施設内のイントラネットで利用。外部リンクサイトや一部の内容は Web アクセス可能。利用にあたり、利用登録（無料）を行い、プログラムディレクター又はコーディネーターによるガイダンスを受けるものとする。コンテンツは随時利用可能。
コンテンツ (すべてのファイル形式は、テキスト 動画 音声等のデジタルファイル)	コンテンツの分野とタイトル例 ■ 軸と絆、他者尊重、寄り添い等の全般に関するもの： 「あなたがたを友と呼ぶ」， 「友情を深める 36 の質問」， 「対話の実践」等 ■ 自己認識に関するもの： 「自己認識とは」， 「もうひとりの私」， 「リトリートが意味する“向き合う時間”」等 ■ 心理的柔軟性に関するもの： 「心理的柔軟性の尺度」， 「ストレスを感じたらやるべきこと」， 「疲れと休息」， 「心理的柔軟性スキルとは？」， 「心理的柔軟性を高める6つのアプローチ」等 ■ 受容と対話に関するもの： 「困難を受容」， 「ネガティブケイパビリティとは」 ■ 価値コミットに関するもの： 「価値を明らかにする」 ■ ユーモアに関するもの： 「対話におけるユーモアのちから」 ■ 自己超越に関するもの： 「自己超越とは何か」， 「自己実現の呪縛」， 「マズローの欲求五段階説と自己超越」 ■ 外部リンク先を含め現在コンテンツ 1000 程度
利用者へのサポート	プログラムディレクター及びコーディネーターは、使い方、技術的な問題等に関する利用者の質問に応えるとともに、利用者が今抱えている、求めている「問い」に見当をつけ可視化する手伝いをする事で、ふさわしいコンテンツを見出すサポートをする。

■ デジタル・アーカイブは、ゆるぎない軸と豊かな絆、他者を尊重し、寄り添うヒントとなるコンテンツを整備し、今の状況に適切にフィットした形で利用できるサポートとともに提供

■ オンラインでの活動プログラム参加者には、安定性とセキュリティを確保し、ストレスのない配信を行えるように機材やコミュニケーションチャンネルを整備し提供

■ 2025 年度延利用者数約 5,500 人

■ 利用は無料



3 事業B 学び・交流のための活動プログラムの開発と提供

活動プログラムの留意事項

■ 用語の定義

参加者とは、活動プログラムに参加する人を指し、オリエンテーションを受ける参加希望者も含みます。**実施者**とは、活動プログラムのプログラムディレクター、プログラムコーディネーター、講師等を始め、活動プログラムの準備、手配、実施に何らかの形で携わる人々を含みます。原則として、個々の活動プログラムは、プログラムディレクター又はプログラムコーディネーターが主導します。プログラムディレクター及びコーディネーターの該当条件と職務は次の通りです。

職務名	該当条件と職務内容
プログラムディレクター	プログラムコーディネーターとして3年以上の経験を持ち、他のプログラムディレクター2人以上の推薦が得られる人を、本人がこの役割を引き受ける意向があれば、協会が指名する。担当するプログラムを他のディレクターやコーディネーターと連携し主導する。
プログラムコーディネーター	2年以上のプログラム参加経験を持ち、本協会の趣旨、事業目標等に賛同し、活動内容を広く理解しているとともに、6つの習慣に親和性を持ち、自らが習得するように生きている人の中から、本人がこの役割を引き受ける意向があれば、協会が指名する。担当するプログラムをディレクターの指導のもとに主導する。

■ 活動プログラムは成果に焦点をあてる

活動プログラムの成果は、「参加者が単に知識や技術を身につけるだけではなく、価値を明確にし、その価値にそって生きる上で、種々の思考や感情によって囚われとなることから自由となり、大切にしたい価値にそって生きていくことを容易にする習慣を身につけること」です。実施者は、成果に焦点をあてて、取り組んでいます。

■ 原則と適応

それぞれの活動には、一定のプログラムデザイン（シラバス、日時、実施者等）が存在します。しかしこのプログラムデザインは、参加者の状態やその時々ニーズ等によって柔軟に適応可能なものです。無論、思いつきやその時の気分で安易に変えてしまうものではなく、流れに逆らっても、忍耐と強さを発揮して取り組む必要があることも事実です。随時適応することと、原則に忠実であることは、多くの場合、見た目は、トレードオフに見える関係であるものの、成果に焦点をあててじっくりと眺めれば、多くの場合、両立する道を見出します。要は、参加者にとって一つ一つの機会が、より効果的なものとなるよう、情性や固定化されたやり方に陥ることなく、日々新たな気持ちをもって、実施者と参加者が共に挑戦を続けることとなります。

■ 立ち位置

実施者が、参加者に対して、心をひらき、参加者を心にとめ、思い巡らしつづける姿勢、つまり共感と尊重という姿勢に欠けていれば、活動プログラムはうまくいきません。特に参加者より「一歩先に行く」とか「優位にいる」「教える立場にいる」という考えを抱いていないか、常に実施者は心がけることが求められます。参加者と実施者は、同じ立ち位置にすることが重要なのです。

ひんぱんに、参加者には、実施者と変わらない立場、同じ立ち位置にいることを伝えます。私たちは、生きていく上で、成功と失敗、順風と逆風、光と闇、称賛と非難、感謝と忘恩等に出くわします。とりわけ、実施者も参加者同様、簡単に思考や感情に囚われ、「今、この瞬間」とのつながりを失い、しばしば行き詰まり、思考や感情との無益な闘いを繰り返します。何度も、落胆、拒否、失敗、裏切り、喪失感、孤独、病気、吐き気、ケガ、悲嘆、不安、恐怖等の苦しみを味わいます。参加者と実施者は、旅路を歩む仲間同士として、共に学び合い、助け合うことという立場にあるよう努めます。

オリエンテーション

オリエンテーションでは、参加者（参加希望者を含む）と実施者（通常プログラムディレクターかコーディネーター）との双方向のやり取りを通して大体以下の流れで内容の確認や伝達した。

- 参加者 55 人。
- 参加者の理解と承諾を得たい5つのポイント（詳細は、下記オリエンテーションガイド参照）
 - ◇ ラポール（信頼関係）を得る
 - ◇ ヒストリー、背景を聞く、意向確認をする
 - ◇ インフォームドコンセントを得る
 - ◇ 最初の目標を大雑把に決める
 - ◇ 活動の方向性の確認

プログラムディレクターかコーディネーターのための オリエンテーションガイド

オリエンテーションは、参加者（参加希望者を含む）と実施者（通常プログラムディレクターかコーディネーター）との双方向のやり取りを通して進めます。オリエンテーションを通して、参加者の理解と承諾を得たいポイントは以下の5つがあります。

■ ラポール（信頼関係）を得る

最初のオリエンテーションで参加希望者は、不安と期待の両方を抱いているのが常です。まず、参加者には、実施者と変わらない立場にいることを伝えます。私たちは、生きていく上で、成功と失敗、順風と逆風、光と闇、称賛と非難、感謝と忘恩等に出くわします。とりわけ、実施者も参加者同様、簡単に思考や感情に囚われ、「今、この瞬間」とのつながりを失い、しばしば行き詰まり、思考や感情との無益な闘いを繰り返します。何度も、落胆、拒否、失敗、喪失感、孤独、病氣、吐き気、ケガ、悲嘆、不安、恐怖等の苦しみを味わいます。参加者と実施者は、旅路を歩む仲間同士なのです。だから共に学び合い、助け合うことができるのです。

実施者が、参加者に対して、心をひらき、参加者を心にとめ、思い巡らしつづける姿勢、つまり共感と尊重するという姿勢に欠けていれば、プログラムはうまくいきません。特に参加者より「一歩先を行く」とか「優位にいる」「教える立場に在る」という考えを抱いていないか注意をしてください。参加者と実施者は、同じ立ち位置に在ることが重要なのです。

■ ヒストリー、背景を聞く、意向確認をする

参加者のことを理解するプロセスは、オリエンテーションから始まります。その後の活動、とりわけパーソナル面談でより深く参加者を知ることになるので、この段階では、次の質問に関してある程度答えてもらうこととします。参加者によっては、明確に答えられないかもしれません。その場合には、活動に参加するうちにより明確に認識できるようになるので心配しないように伝えてください。4番目の質問では、参加者が是非話しておきたいことがあれば、時間の許す限り限り耳を傾けてください。また、実施者が必要と感じた場合には、これ以外の質問を加えてもかまいません。

- ◆ 活動を参加するにあたり、特に、何を期待していますか。
- ◆ 生きていく上で、大切にしたいこと（価値）にはどんなことがありますか。
- ◆ 大切にしたいこと（価値）に沿って生きる上で、何が邪魔になりますか。
- ◆ 他に、聞いておくべきことがありますか。

■ インフォームドコンセントを得る

このステップは主として三つあります。（直前のステップが一定以上の時間が経過するようなら、参加者には、次のように言って、このステップに移ります。「お聞きしたいことはまだまだあるのですが、オリエンテーションとして、この程度で一旦区切り、参加する活動とはどんなものか、何を狙いとしているのか等について、少し話をさせてください。」）

① どんなことをするのか、何を狙いとしているのかを伝えます。この中でお伝えすることの一つは、本協会のルーツや人間観には、カトリックが背景にあること、宗教活動や宣教を行うわけではないものの、出入りをすれば、カトリックの文化的・社会的な面にも間接的に触れることになることをお伝えし、この点で承諾をいただけるのかを確認します。

② 日々の生活での実践の重要性を伝えます。参加者は、活動プログラムに参加して、理解が深まった、今までの整理ができたといった一定の満足を得るかもしれません。それは良い経験であることには違いないものの、本当に大事なパートは、各自の日常で学んだことやろうと決めたことを、どこまで実践し、生活に落とし込むことができるのかが最も重要なのです。この点をしっかりと伝えてください。

③ 考えられる副反応を伝えます。目標や価値を明確にしていくにつれ、如何に自分がそこから離れた生活を送っているのかが次第に明らかになり、自分に失望を感じたり、熱意を感じなくなったりということが一時的にいてもあり得ます。気持ちの良い経験ではないものの、この時こそセルフコンパッションや自己認識を深める大きなチャンスであると捉えることが重要です。

■ 最初の目標を大雑把に決める

参加者が、活動を通して何を学び、どんなことを身につけたいのか明確にします。最初から、詳細な目標を立てる必要はありません。細かすぎる目標を立てると、その時は、何か成し遂げたの良い気持ちになりがちですが、時間の経過とともに、形骸化や硬直化を招きがちです。むしろ、大雑把な狙いでもいう目標を仮置きする程度で良いでしょう。通常、参加者は、時とともに、様々な気づき得て、より有効な目標を発見していくものです。

■ 活動の方向性の確認

以上のステップから、参加者がまずどんな活動を何回程度、経験してもらうのか一定の方向性を決めていきます。

そこで作成する典型的な活動パッケージの例を2つ掲げます。

- ◆ 参加意欲が高くコミットが明確な方なら、パーソナル面談（週1）4～6回程度、リトリート（月1）を3回程度、サークル（週1）を4～6回程度参加
- ◆ まだ本格的に参加するかどうか決めていない方なら、パーソナル面談（週1）3回程度、リトリート（月1）を1～2回程度、オープン対話を2，3回、その他の体験会・ツアー・スポーツ等の活動で興味があるものに参加

オリエンテーションの最後で参加者をお願いするのは、出発点の状態（ベースライン）を測定するための Web アンケートへの回答です。それ以外に、チェックシートや説明書の提出を求めることはしておりません。



■ 他の団体や機関をお勧めしたほうが良いケースについて

基本的に、「来るものは拒まず」というスタンスで、人々を迎えます。参加者と実施者は、最初の半年程度の間、細やかに参加の状況や進捗度合い、フィット感といったことについて、パーソナル面談等で振り返り、この方向で続けるのか否かを見極めるようにしていきます。

一定期間の後に、ごく稀に、フィット感を感じない人、自分のいる場所と違うのではないかと感じた違和感を感じる人もいます。できる限りそういう人にも寄り添うようしつつ、少し冷却期間を設けたり、本人の意向により合った他の組織のプログラム等を見つける手伝い等をします。

例外的には、活動プログラムに参加するよりも、まず専門の医療機関等において治療に専念すべきことが明らかな場合は、実施者から、現時点での参加は、見合わせるべきことをお伝えする場合があります。

例

- ◆ 精神科の治療が必要と考えられる重度の疾病をお持ちの方
- ◆ 医療的治療を必要とする重い依存症に苦しむ方

サークル

社会の課題に正解が見あたらない状況に対処するため、問題の本質を捉え、解くべき課題を発見し、問いを投げかけ創造的対話を促進する基幹となる習慣を学ぶ勉強会を 45 分～1 時間/回、原則毎週 1 回実施

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
お試し	随時	オンライン	16
社会人	毎週 金 1715 と 1915 土 1015	オンライン	545
社会人	毎週 火 1900	セイドー文化センター	446
社会人	毎週 木 0915	セイドー文化センター	275
学生	毎週 日 1030	セイドー文化センター	194
合 計			1560 人

■ 対 象 者 年齢・経験・意向等により 10 人までのグループに編成。英、西、仏語対応

■ 開催日数 約一時間/回を、週一回程度で実施

■ 場 所 自己施設又は外部施設。全てオンライン参加対応

■ 費 用 無料

■ 実施者が留意したポイント

- ◇ 理論的な説明に始終するのではなく、実施者が自らの実践で気づいたことを、自らの言葉と適切なメタファーを使って説明をするように心がける。
- ◇ 各クラス内容は、参加者の状況やニーズ等に適合させ、必要なら説明する内容や順番を変更するなど、柔軟に運用にする。
- ◇ 要は、内容を正確に伝えることより、目指す習慣を習得するために、参加者が日々の生活で心がけ、練習を積んでいくための刺激、ヒント、サポートを効果的に行うことに軸足を置いた。



■ テーマ各クラス内容

基本となるテーマは、六つの習慣を身につけること

- ◇ 自己認識
- ◇ 心理的柔軟性
- ◇ 受容と対話
- ◇ 価値コミット
- ◇ ユーモア
- ◇ 自己超越

■ テーマ毎の各クラス内容

番号	テーマと概要	月	週	
1	習慣：身につけたい6つの習慣に共通するポイントの解説と実践	4	1	習慣の力と形成
2		4	2	知識、技術等：習慣 = PCのアプリ：OS
3		4	3	秩序 時間の活用 英雄的瞬間
4		4	4	自分と他者に対する共感
5		5	1	振り返り点と転換点 マイルストーンとターニングポイント
6		5	2	対話的に習得する習慣
7	復習、補足等	5	3	予備
8	自己認識：自己認識とはなにであり、自己認識を深めるためにどうするのか、自己認識が増せば他者認識も増すことの理解を深め、普段から意識し、取り組む仕方を習う。	5	4	自己認識とその前提である心構え 謙虚、誠実、感謝、挑戦等
9		6	1	フィードバックを求める
10		6	2	振り返る
11		6	3	リトリートを利用する
12		6	4	個人面談を利用する
13		7	1	問いかける： できることとできないこと
14	復習、補足等	7	2	予備
15	心理的柔軟性： たとえ不快な感情や考えがあったとしても、大切にしたいと思うことに向かって行動できるようになる習慣である心理的柔軟性の諸側面、構成要素、コツを見る。	7	3	心理的柔軟性とは
16		7	4	iモードとWeモード
17		8	1	転換点
18		8	2	内的落ち着きと喜び
19		8	4	3つのポジション： 受容、コミット、Weモード
20		9	1	よりそう仲間
21	受容と対話： あるがままを受け取る習慣とともに、安らぎと創造性に関わった対話を心がける習慣を生活で意識し練習することを習う。	9	2	受け取る、 囚われ、 雲のメタファー
22		9	3	闘争逃走反応 VS 受容、 創造的あきらめ
23		9	4	心に風を入れ心が広がる。心に浮かべておく
24		10	1	よりそう： ともにいる 受け止める 共感する
25		10	2	多様な声： 対話の場 全員の声 リフレクティングトーク
26		10	3	新たな理解： 安心と信頼、創造的な不確定性、未来につながる
27	価値コミット： 自らが大切にしたい価値を発見し、それに効果的にコミットする習慣を理解し、取り組むヒントを習う。	10	4	価値： 自らが大切にしたこと、目的との違い等
28		11	1	価値コミット： 価値に沿って生きること
29		11	2	心にとめて、思い巡らす： 計画、段取、人等
30		11	3	スポーツマン精神
31		11	4	希望
32		12	1	小さいこと
33	復習、補足等	12	2	予備
34	ユーモア： 困難な状況においても、樂觀性、笑い、ユーモアを持って生きることが可能であること、その取り組み方を習う。	12	3	現実を見るフィルター、先入観等
35		12	4	樂觀と悲觀
36		1	1	喜びと悲しみ
37		1	2	希望と失望、絶望
38		1	3	柔軟性と硬直性
39		1	4	内的平和と喜び
40	復習、補足等	2	1	予備
41	自己超越： 自分の殻や境界線を超えて、冒険・探求に出かけ、他者に深く関わっていくのを生活で実践する仕方を習う。	2	2	身近な自己超越
42		2	3	アスリート等のフローやゾーン体験
43		2	4	自己呪縛 VS 自己超越
44		3	1	自己の殻や境界線を越えるとは
45		3	2	あえて明後日の方向を向く冒険・探求行動
46		3	3	他者に関わる 無償性の論理
47	復習、補足等	3	4	予備

同一月内に第5曜日があるときは休みか参加者と相談の上で、補講日とする

リトリート

日常生活から離れて、沈黙の中で、自分を見つめ直し、心身をリラックス・リフレッシュするとともに、注意力、集中力、ストレス管理等のスキルを向上させるエクササイズ。

■ 月例プログラムは毎月実施。2泊～5泊のコースプログラムは年5回実施

プログラム名	開催日	場所	参加人数
社会人月例	第4土曜日	セイドー文化センター	185
若手社会人月例	第4木曜日	セイドー文化センター	61
社会人月例(英語)	第4日曜日	セイドー文化センター	62
学生月例	第3日曜日	セイドー文化センター	53
社会人4日	5月2日～5日	奥芦屋スタディセンター	16
社会人4日	10月7日～10日	奥芦屋スタディセンター	18
社会人4日(英語)	12月1日～4日	奥芦屋スタディセンター	14
学生4日	12月1日～4日	奥芦屋スタディセンター	15
社会人5日	12月26日～31日	奥芦屋スタディセンター	20
社会人月例	第3土曜日	外部施設	58
合計			501人

■ スケジュール（月例プログラム）講話による話題提供と、自由時間を各自が好みの形で過ごす

時刻	活動・テーマ
0930-1000	講話1 ※
1000-1030	自由時間
1030-1045	考察ポイントによる振り返り
1045-1130	自由時間
1130-1200	講話2 ※
1200-	ランチ 希望者のみ

※ 講話は、一定の知識、経験、評判をもとに本協会が認定したカトリック神父・司教が担当
 ※ 上記は、午前のスケジュール例。午後に実施する場合もある。時間配分はほぼ同じ。

■ 講話トピックスの例

- ◇ 今を生きる マインドフルネスあるがまま受け取り、価値にそって進む
- ◇ 自己認識を深めるための自分を振り返る習慣
- ◇ 光と風、外からのシグナルと時の印に気づく
- ◇ 無償で受け、無償で与える



■ 月毎の共通テーマ

月	内容
4	出発と再出発、再び立ち上がる
5	目標と価値：ゴールと大切にしたいこと、日々の継続
6	リーダーシップ、奉仕の精神、強さ
7	希望と喜び
8	笑顔、共感、優しさと逞しさ、細部への気配り
9	秩序、優先順位、仕事と家庭のバランス
10	受け取る と 与える
11	休息する
12	絆を深める、ツールとしてのソーシャルメディア
1	健康と病、老い
2	生きがい
3	家族・高齢者のケア、世代間の共存。

■ 参加費用 月例は無料 宿泊を伴うものは実費一泊あたり約 9000 円（個室 3 食込）

SQUEEZE YOUR TIME

Okusashima Study Center
〒659-0004 Ashiyoshi
Okusashima minamicho 64-1

From Friday, Oct. 4th, 6 p.m.
To Sunday, Oct. 6th, 8 p.m.
¥20,000 All meals and materials included

Most university students find it difficult to control their schedule, due to all the activities they are impelled to do.

At the same time, they want to do much more things than just having classes, club activities and a part time job.

This seminar aims to help them, through practical presentations, personal coaching and talks with experienced professionals.

Talks, movie discussion, get-together with professionals, practical sessions about time management applications, workshop on personal balanced schedule and mid-career planning, self-reflection, personal coaching.

BECOME THE MASTER OF YOUR TIME, TO BECOME THE MASTER OF YOUR LIFE

オープン対話会

3人以上のくつろいだ雰囲気のもとで、参加者各自が立場にこだわらない対等性、ポリフォニック（多声的）な対話になるよう配慮することで、今の立ち位置や状況を異なった視点で眺め、新たな理解や創造的なひらめきを得るために対話する「だんらん」の機会を提供した。

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
対話会 昼	毎日 1300-1330	セイドー文化センター	1,679 人
対話会 夜	毎日 2030-2100	セイドー文化センター	4,607 人
対話会 夜	毎日 2000-2030	自由が丘ハウス	188 人
合 計			6,474 人

- 開催日数 1 回 30 分 ほぼ毎日 年間約 1000 回 開催
- 場所 自己施設
- 内容 話題は、事前に参加者の希望によるか、その場で自然に出てきた内容
- 参加費用 無料
- その他 英語、西語にも対応



パーソナル面談

利用者ごとにプログラムディレクター・コーディネーターの中から特定の担当者を決め、コーチング、メンタリング、よりそい等の要素を持つ対話を通じて、自らが大切にしたいと思っている価値を確認し、価値に沿って取り組む習慣を作るため、一対一で定期的に行う対話の活動を行った。

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
パーソナル面談	随時	セイドー文化センター / オンライン	3,473 人
合 計			3,473 人

- 開催日数 参加者ごとにほぼ毎週 1 回から 2 週間に 1 回実施
- 場所 自己施設又は外部施設。オンライン対応
- 内容 今やっけていきていることを眺め、変えられないことを受け入れ、変えられることを自らの価値にそって取り組む、以上に関する限りどんな話題でもとりあげた
- 参加費用 無料
- その他 英語、西語にも対応



フォーラム

社会起業家、演劇・映画監督、俳優、学者、芸術家、建築家、彫刻家、音楽家、コンサルタント、アスリート、セラピスト、外交官等の専門家を招き、困難な状況においても、楽観性、笑い、ユーモアを持ち、あきらめず挑戦をつづける励ましを受け、自らが大切にしたい価値に気づく等を目的とする話題提供と対話を行った

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
グローバル・エンタテインメント・ビジネスで学んだ4つの軸	2026年3月18日	政策研究大学院大学 4A研究室 オンライン	48人

■ 担当者 田端 花子 氏 フリーランス・プロデューサー

■ 内容 音楽業界でのキャリアや、仕事・子育て・介護などの多重生活の経験から得た「長く楽しく働き続けるための4つの軸」について

■ 参加費用 無料

■ その他 英語、西語にも対応



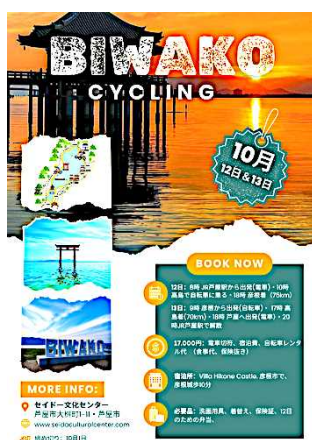
体験会・探求ツアー

新しい視点、気づき等を得るためにツアー、博物館・美術館等見学、山歩き等を行う活動

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
サイクリングツアー	2025 年 10 月 12 日-13 日	滋賀県（琵琶湖）	5 人
虚子記念文学館ツアー	2026 年 3 月 11 日	芦屋市	10 人
合 計			15 人

- 開催日数 年 2 回実施した
- 場所 外部施設若しくは野外
- 内容 日常を離れて探索に出かけることで、課題解決の手がかりを掴む
- 参加費用 実費 3000 円～10000 円（移動費と入場料等）



ボランティア

全てを生産性、成果、パフォーマンスで評価する社会の中で、無償で与え、無償で受けることはひどく難しいこととなった。ボランティア体験を通して、無償性のロジックを発見し学ぶ活動

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数
釜ヶ崎 炊き出しボランティア	毎月第3土曜日	大阪府大阪市	28
独居老人や老人施設訪問	毎月第4土又は日曜日	神戸市	33
合 計			61 人

■ 開催日数 日帰りボランティア月1回程度

■ 場所 外部施設若しくは野外

■ 内容 独居老人よりそい、路上生活者への炊き出し等

■ 参加費用 無料 但し海外ボランティアの場合は実費相当 6,000 円/日（移動・食事・宿泊等）



連携・助成

世界中の NPO、NGO、公益法人、ビジネススクール、国際組織等と連携協力したプログラムを行うとともに、人材の育成に取り組む団体に助成プログラムで支援する活動

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数（延）
ファミリー育成ワークショップ	毎月第2と第4日曜日	セイドー文化センター又は外部施設	延 94 人
視野拡大セミナー Seminar for Young Professionals (SYP)	2025 年 5 月 10 日～11 日	IESE ビジネススクール(バルセロナ)と IC (ローマ) 連携した、リーダーシップとマネジメント育成プログラム	9 人
「沖に乗り出す取組」 助成プログラム	1～3月募集	兵庫県内で活動する団体組織（法人格の有無や種類は不問）を対象とし、分の安楽で居心地の良い場所から外に出向き、境界線を越え、他者に自らを差し出すことを促す活動・事業に助成。選考結果ファミリー育成協会のパーソナルプロジェクトワークショップ事業に決定	助成1団体（1事業）

- 内容 連携プログラムは、外部の団体組織の比較優位性を生かして実施。助成プログラムは、参加者が自身のコンフォートゾーンから一歩出る取り組みを主として支援

- 参加費用 ワークショップは、1000 円/日

セイドー文化センター



視野拡大セミナー
若手社会人向け研修会

トピック

- AIを仕事と生活に役立てる方法
- 生活の改善方法
- 職場で幸せになること
- 日本文化とキリスト教の共通点
- キャリアデザインのための重要なポイント

4月12日(土) 11時～14時
4月13日(日) 14時～

35歳未満の男性社会人

奥平屋スタジオセンター
1兵庫県神戸市東灘区46番1号

¥12,000

※初 4月5日

SEIDOCULTURALCENTER.COM ☎ 0797-25-9650

セミナーの目的

私たちはしばしば、活動の渦に巻き込まれて落ち着いて考える時間がありません。時には立ち止まり、自分が正しい方向に進んでいるかどうかを確認する必要があります。このセミナーでの講演、ディスカッション、そして反省の時間は、忙しいスケジュールに追われる若い社会人が「枠を超えて考える」ことの助けになればと思います。

ゲストスピーカー

WIJAYA EDWARD: AIを仕事と生活に役立てる方法
ロンドン・イスタンブール・オーストラリア・インドネシアで情報システムの修士号も、シンガポール国立大学でバイオインフォマティクス修士号も取得しました。東京大学、京都大学、大阪大学でバイオインフォマティクス関連の修士研究員として働き、現在も大阪大学で活動を行っています。また、5人の子供の父親であり、可成り忙しな生活を送っています。

向山伊知郎: 習慣を通して、生活改善
1993年慶応義塾大学医学部卒業。2000年ナララ大学留学。関西メディカル病院耳鼻咽喉科部長、心臓病治療に活用した耳鳴治療を専門としている。

尾崎昭夫神父様: 日本文化とキリスト教
京都大学で博士課程を修了した後、マハラジャで歴史学の修士号を取得しました。長年にわたり、さまざまな大学や中等学校でスペイン語、歴史や宗教を教えた。現在は、聖道文化センター (Saido Culture Center) のチャペルとして活動しています。

横江友則: キャリアデザインのための重要なポイント

- ※阪急電鉄で営業部長として勤務。阪神淡路大震災後、「スリットKANSAI」を立ち上げ、全阪急駅利用者を救済。
- ※大阪府交通路で副部長として地下鉄利用促進活動を推進し、民営化準備に尽力。
- ※グローバル交通連携機構の専務理事として、MasSによる観光振興に取り組む。
- ※(株)スグナビの会長として経営再建を主導し、経営利益を回復。

複合活動

一定の参加者の状況やニーズに応じて、上記の活動を基本パーツとし、複数の活動を組み合わせ一連のコースとした活動プログラム

■ 実施プログラム名、開催日、場所、参加人数

プログラム名	開催日	場所	参加人数（延）
体験コース	随時	始めて参加する人々に、オリエンテーションと意向確認後、プログラムディレクターが参加者のニーズと状況から好ましいと判断する場合に、リトリート、オープン対話会、パーソナル面談の3つの活動を一定期間経験し、参加者のフィット感と望みを特定するコース	延 92 人
夏期集中コース	8月10日～31日	一定の参加経験を持ち、成長と成熟を促し、より創造的・効果的に生きることを目指す人を対象に、サークル、リトリート、レクチャー、オープン対話会、パーソナル面談等を選定し、パッケージした集中コースを実施した。	延 420 人

■ 参加費用 体験コースは、無料。集中コースは、実費相当 6,000 円/日（宿泊と三食）



4. 事業の評価と参加者の声

事業評価：測定方法と評価デザイン

1. 調査の目的と概要

当協会の長期目標である「ゆるぎない軸と豊かな絆を持ち、他者を尊重し他者によりそうことができる人の育成」に向けた進捗を客観的に評価するため、参加者にもたらされる「6つの習慣」の定着度を測定し、事業活動の成果（インパクト）を検証しました。本年度の調査は、既存参加者および新規参加予定者の計48名を対象に実施しています。

2. 評価の枠組み（ロジック・モデルの活用）

活動が社会に与える成果を論理的に可視化するため、「インパクト測定・マネジメント（IMM）」の枠組みを採用し、以下の6段階からなる「ロジック・モデル」を策定しました。

段階	説明	本協会の事業で該当する内容
1. 投入資源 (インプット)	事業を実施するために必要な資金や人材等の資源。	事業を実施するための資金、プログラムディレクターやコーディネーターなどの人材、施設（センター等）、アーカイブなどのデジタルリソース
2. 活動 (アクティビティ)	事業を構成する個々の単位にきり分けられる実施活動	A. 施設・アーカイブ提供 B. 活動プログラム提供：①サークル、②リトリート、③オープン対話会、④パーソナル面談、⑤フォーラム、⑥体験会・探求ツアー、⑦ボランティア、⑧連携助成、⑨複合活動
3. 結果 (アウトプット)	活動の実施回数や参加人数など、活動実績。	◆各プログラムの実施回数 ◆年間延利用者数 ◆各活動に参加した人数や頻度
4. 成果 (アウトカム)	アウトプットがもたらす受益者の変化、便益、学び等。ロジックモデルで言う初期～中期成果に該当	測定対象となる6つの習慣。詳細は次の表を参照。
5. 事業目標 (インパクト)	事業を通して達成したいゴール。ロジックモデルで言う長期成果に該当	ゆるぎない軸と豊かな絆を持ち、他者を尊重し他者によりそうことができる人の育成

6. 上位目標 (スーパーゴール)	事業目標を達成することによって目指す最終的なゴール	社会の真の発展・繁栄に貢献する
----------------------	---------------------------	-----------------

【事業の成果（アウトカム）として育成を目指す「6つの習慣」】

6つの習慣	説明
(a) 自己認識と他者認識	自身のプラスもマイナスも直視する自己認識であり、これが深まれば他者認識も比例して深まる
(b) 客観視メタ認知	思考への囚われ（フュージョン）を解き、とらわれから距離を置いて大切なことに取り組む「心理的柔軟性」を指す。
(c) 受容	驚異や理不尽、嫌悪等に対して、戦ったり逃げたりせずにそのまま受け入れる「対話的受容」やアクセプタンスの姿勢
(d) 価値コミット	大切にしたい価値を発見し、それに効果的に取り組む。苦しい考えや感情にフックされても、価値に沿って行動する力。
(e) 対話	癒しと創造性にかかれた対話を経験し、実践する姿勢。
(f) 自己超越	自分の殻や境界線を超えて、新たな冒険や探求に出かけ、他者に深く関わっていく姿勢

3. データ収集と測定方法

参加者の成長度合い（成果）を測るため、定期的なアンケート調査を活用しています。

- **定量的アプローチ**: 「6つの習慣」それぞれに対して3問ずつ、計18問の意識・行動指標を設定し、0～10のスケールで回答を収集し、スコア化しています。
- **定性的アプローチ**: 数値データに加え、参加者の「語り（ナラティブ）」や感想など、具体的な行動変容を示す定性的な情報を収集・統合することで、数字だけでは見えない本質的な変化を浮き彫りにしています。

4. 分析デザインと因果関係の検証

収集したデータは、当協会の活動が実際に成果を生み出しているか（貢献度）を証明するために、以下の手法を用いて多角的に分析しています。

- **クロスセクション分析（比較対象の活用）**: 参加前の新規参加予定者（T0）をコントロール群（比較対象）として設定し、参加歴3年以上の層（T5）とのスコアの差分を計算することで、純粋な「事業のインパクト」を算出しています。
- **縦断的分析（長期的な変化の追跡）**: 参加時（T0）、1年後（T1）、3年後（T3）、5年以降（T5）の各時点におけるスコアの推移をグラフ化し、習慣がどのように定着・向上していくかを可視化しています。さらに、分散分析などの統計モデルを用いて、その変化が誤差ではなく意味のある変化であることを検証しています。

- **活動と成果の相関分析:** 参加頻度や参加したプログラムの種類（アウトプット）が、参加者の「6つの習慣」の向上（アウトカム）にどの程度寄与しているかを回帰分析で確認し、活動の有効性を裏付けています。

5. 今後の展望

この評価モデルの導入により、当協会の活動実績を単なる「参加人数」ではなく、「参加者の成長（インパクト）」として社会に説明することが可能となりました。今後もこの測定・分析サイクルを継続し、得られたデータをプログラムの改善や意思決定に直結させることで、当協会の提供価値をより一層高めてまいります。

事業評価：評価結果と所見等

1. 評価結果（事業インパクトの算出）

アンケート集計に基づき算出された「6つの習慣」ごとの参加期間別平均スコア、および初期段階（T0）から3年以上経過（T5）におけるインパクト（向上幅）は以下の通りです。

対象となる習慣	T0 (これから)	T1 (1年未満)	T3 (1年以上)	T5 (3年以上)	インパクト (T5 - T0)
習慣(a) 自己認識	5.7	6.7	8.3	8.2	+2.6
習慣(b) 客観視	5.0	6.0	8.3	8.4	+3.4
習慣(c) 受容	5.7	5.3	8.0	8.0	+2.4
習慣(d) 価値コミット	4.7	8.7	8.0	8.8	+4.1
習慣(e) 対話	5.0	3.0	7.3	7.6	+2.6
習慣(f) 自己超越	5.7	7.3	7.7	8.3	+2.7

【インパクトの算出定義】「3年以上参加している層（T5）」の平均スコアから、「まだプログラムを受けていない層（T0）」のスコアを差し引くことで、当協会の活動がもたらした「純粋な習慣の定着・押し上げ効果（インパクト）」を可視化しています。

2. 所見

コントロール群（T0）と比較し、3年以上参加群（T5）において、すべての「6つの習慣」スコアが大きく向上していることが確認されました。特に「習慣(d) 価値コミット」において、+4.10ポイントという最大のインパクト（押し上げ効果）が確認されました。これは、当協会の活動が参加者の人生の目標や今大切にしたい価値観を明確にし、行動へ移す変容プロセスに極めて強力に寄与していることを明確に示唆しています。

3. 課題の特定と事業改善に向けたアクション（マネジメント）

本データ（成長曲線）の推移を詳細に分析した結果、以下の課題と次年度に向けた改善アクションが特定されました。

- **課題：**「習慣(e) 対話」のスコアが、コントロール群（T0）から1年未満（T1）の期間でマイナス2ポイントと初期段階での一時的な落ち込みが確認されており、その真因を特定するとともに、導入期のフォローアップ体制に改善の余地があるようです。
- **改善アクション：** 該当する群の参加者に対するパーソナル面談の頻度と継続性を増やし、個別的な伴走支援を強化します。

4. 広報・報告用サマリー

Altum 協会では、参加者の皆様が困難な状況下でも『ゆるぎない軸』を持てるよう活動しています。

本年度の事業評価において、当協会のプログラムに継続的に参加することで、『自己認識』が2.57ポイント、『客観視（心理的柔軟性）』が3.38ポイント向上するなど、すべての指標において確かな成長が確認されました。特に、自身の大切にしたい価値にコミットする力は最大で4.10ポイント大幅に向上することがデータとして実証されました。

サポーターやステークホルダーの皆様からいただいた温かいご支援は、こうした確かな『人の育成』と、社会に根ざす豊かな絆の構築へと着実に結びついています。今後とも活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。」

参加者の声

◆ 30代 大手リゾート会社勤務 「学生時代に、協会のボランティア活動に参加したことがきっかけで、生きづらさを感じているこどもによりそう活動を続けています。昨年は、仲間とNPOを設立しました。こどもの保護者や友人とは異なる立場から一人ひとりによりそうことが私のライフワークになりそうです。」

◆ 40代 映画監督 「おかげさまで最新作『桜色の風が咲く』（全盲ろうの東大教授とお母様の物語）は、まずまずの評価を得ているようです。振り返れば、私の作品の多くは、障害を描くことで、人と人がよりそい、絆をもち、生命や人生の神秘にふれようとするものです。こうした姿勢を身に着けたのは、社会人として駆け出しのころから、サークルや個人面談等に出席してきたことが大きいと思います。」

◆ 40代 大手医薬品メーカーのメディカルトレーナー 「仕事は、全国美容医療クリニックを訪問し、医師のトレーニングをすることです。この業界は、より「きれい」になりたいクライアントに如何に答えるのかが問われています。クライアントが表面的なきれいにとどまるのではなく、生き方や心のあり方次第でもっともっときれいなれる、このことを、クリニックの先生方には強調しています。私自身、きれいに生きるために、定期的に面談やサークル、リトリート等を活用しています。」

◆ 50代 IT企業部長 「大手家電メーカーのエンジニアの経験を買われて、今のスタートアップ企業にスカウトされました。チームメンバーは、それぞれのタスクに真剣に取り組む中で、しばしば壁にぶち当たり、その状態から抜けるヒントが見当たらないのです。こんな時には、あえて、道草をする、明後日の

方向を向くことを、協会の活動で習いました。美術館や、公園、山歩き等を行うことで、いつの間にか、ひらめきや見過ごしていたことに気づくことがたびたびあります。」

◆ 60代 作家 「今まで、教育関連の本を中心に100冊以上出版しました。おかげさまで全国の幼稚園から高校の先生や保護者に講演をする機会をいただいています。前向き・肯定的・感謝の心で生きる等が基本メッセージです。こうしたメッセージや、背景の人生観は、協会のサークル等の活動に参加することで多くを学びました。いや、以前に学んだことを定期的に復習し思い出させてくれるために、また新たな切り口を見出すために、今でも定期的に利用しています。」

◆ 60代 プロフェッショナルコーチ 「経営コンサルタント及びエグゼクティブコーチとして50年近く仕事をしてきました。その間、1万人以上のクライアントと繋がりを持ちました。コーチングの柱の一つにしているのは、『自分自身ができること、できないことを識別し、できることに取り組み、できないことは受け入れる』ことのサポートです。こういって、とてもシンプルなものの、実際にやってみると難しいのです。特に、できないこと（コントロールできないこと、今答えのないこと等）に囚われている人がかなりいます。お恥ずかしい話ですが、私もしばしば特定の思考や感情にとらわれることが今でもあり、クライアントには、あなたと私はそれぞれの山に登っている登山仲間であると伝えています。こうした仕事のスタイルは、学生時代からかかわってきた協会の事業と背景の考え方から大きな影響を受けました。また今も、オープン対話会やリトリートに参加することで、新たなヒントややり方に関するひらめきを与えられています。」

◆ 70代 PR会社CEO 「PR業界でずっと仕事をしてきました。クライアントには、アップルやNTTといった大手を含め通算1000社を超えています。国際PR学会や日本PR研究所の理事や大学客員教授という立場から、またPR解説書の出版を通して、どんなPRにも、双方向性、自己修正、倫理観の3つが重要であると言っています。この3つが個人レベルでも重要であり、洋の東西を問わずあてはまることは、この30年、協会のリトリートや面談を利用しながら確信したことです。」

5. ガバナンス体制

現行役員名簿

職名	氏名
理事長	向山伊知郎
常務理事	稲畑誠三
理事	松本准平
理事	LEON GONZALEZ ROBERTO
理事	木村昌平

評議員	瀬田 尚
評議員	田丸 純
評議員	渡邊顕彦
評議員	小林博子
評議員	安井淳

監事	塚本 慎一
----	-------

監事	Kolf David
----	------------

プログラムデザイン評価委員会（略称「PDEC」）（助成先選考委員会兼務）名簿

職名	氏名
委員長	向山伊知郎
委員	稲畑誠三
委員	松本准平
委員	田丸 純
委員	渡邊顕彦
委員	デビット・セル

会議の実施状況

年月日	会議名	内容	決議結果
2025 年 5 月 20 日	理事会	令和 7 年度事業と決算報告 / H104 土地建物売却先と益金の運用 / 協力協定の締結 等	全て承認
2025 年 6 月 11 日	評議員会	令和 7 年度事業と決算報告 / 理事の改選	全て承認
2025 年 6 月 11 日	理事会	代表理事び常務理事の選定	全て承認
2025 年 11 月 12 日	PDEC	事業評価と今後の事業計画（Altum Forum と Hope Project）相談	報告相談のみ
2026 年 3 月 12 日	理事会	令和 8 年度事業計画と収支予算	全て承認
2026 年 3 月 28 日	評議員会	令和 8 年度事業計画と収支予算	全て承認
2026 年 3 月 26 日	PDEC/選考委員会	事業評価 / 助成先選考	選定

ガバナンス機能を充実させる留意点

- ◇ 定例の理事会・評議員会とは別に、遠方在住の評議員及び理事・監事が参加可能なオンライン手段を活用し、モニタリング会議という名前で、年に数回の会議を開き、進捗状況の報告確認や、意見交換をした。
- ◇ 決議をするまでに、何らかの疑義や質問を含めいかなる意見であっても口頭あるいは文書でそれを自由に述べる権利があること、そして権利を放棄することは、しばしば無責任につながるという点を、全ての会議出席者に繰り返し周知した。
- ◇ 頻繁に理事長と常務理事は、他の理事、評議員、監事に連絡をとり、連携と共同統治を実現するようにした。
- ◇ 主としてガバナンスとコンプライアンスに関して、内部通報の窓口、通報のあった時の処理の流れを外部有識者と検討しており、次年度には素案を提示する予定。
- ◇ 監事による監査が形式的なものとならないように、監事の役割に関する外部研修を関係者に受けてもらうよう検討。

6. 事業所等の体制

事業・組織体系図

